

平成19年度「福井新元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成20年3月末現在)

「福井新元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成19年7月に知事と合意をした「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成20年3月

健康福祉部長 品谷 義雄

I 総括コメント

1 「共動福祉社会」の実現

・社会的に助けが必要な人々を県民と行政が一緒になって支える「共動福祉社会」を実現するため、「地域福祉コーディネーター」の育成を積極的に行いました。また、ボランティアの情報発信や集いの拠点として、アオッサに「ボランティアカフェ」を設置するなど、福祉ボランティアの活動を活発化しました。

2 元気生活率のアップとあたたか福祉の推進

・高齢者の元気生活率をアップするため、地区老人クラブ等においてラジオ体操の実践などを積極的に呼びかけ、高齢者一人ひとりが自己管理による健康づくりに取り組む意識を広めることができました。

また、要介護者に対しては、できる限り住み慣れた自宅や地域で生活できるよう、在宅介護サービスおよび介護施設の充実を図るとともに、認知症や高齢者虐待に対応するため、市町、自治会、民間企業等に働きかけを行い、各地域において支援体制の構築が図られました。

3 障害者の自立と社会参加促進

・障害者授産施設等において、収益性の高い商品の開発や販路拡大を支援した結果、働く障害者の工賃は、目標を上回って増大しました。

同時に、障害者のスポーツや文化活動の振興を図り、障害者が地域において豊かで、自立した生活が送れるよう積極的に支援しました。

また、車いす使用者用の駐車区画を適正利用することを目的に「ハートフル専用パーキング」を創設し、国、自治体および民間に理解を求めたところ、目標を上回る施設の協力が得られました。

4 地域医療体制の確保

・特定の診療科や地域で医師が不足している状況を解消するために、県内初期臨床研修医の確保のための臨床研修病院合同説明会の開催や、医師確保アドバイザーが県内外の医師に対し県内就業を働きかける等、医師確保対策を積極的に実施しました。

特に不足している産科医師への対策として、助産師外来や院内助産所の開設を推進した結果、来年度、新たに2か所の助産師外来が開設される運びとなりました。

また、地域で支える医療体制の整備を推進するため、かかりつけ医と病院の連携促進等を盛り込んだ第5次保健医療計画を策定しましたが、今後、医師会等と協力し、各種施策を進めていきます。

5 健康長寿ふくいの推進

・メタボリックシンドロームにならないよう、県民の生活習慣改善を支援するため、適切な食生活に関する出前講座、適度な運動習慣定着のための「みんなでラジオ体操(みんなラジ)」運動の推進、たばこの害を普及する禁煙出前講習会等を積極的に実施しました。

また、「笑い」を通じた健康づくりを普及するため、保健医療関係者を対象とする笑いの効果に関する研修会や、県民を対象に関西大学落語研究会と連携した笑いの実演会を開催し、新たな健康づくりを県民に広めました。

さらに、こころの健康対策として、精神疾患の早期発見、早期治療のため、医師会と協同して、県独自のこころの健康チェック手法を開発しましたが、今後、これを関係機関へ普及させていきます。

6 がんの予防・治療日本一

・がん検診受診率の向上に向け、ショッピングセンターでの出前検診や各市町に対し受診率向上のための助言等を積極的に行った結果、肺がんや大腸がん検診の受診率が大きく向上しました。

また、県内の高度ながん診療診断・臨床研究の拠点となる「がん医療推進センター」については、国内トップクラスのがん医療の第一人者を迎え、センター機能等に関する構想を取りまとめました。来年度には、罹患者数が最も多い胃がんを対象に、チーム医療等を開始します。

II 「政策合意」項目に係る結果について

・別紙「平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)」のとおり

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品 谷 義 雄																																													
項 目		実 施 結 果																																														
<p>1 イキイキ・長生き「健康長寿」 ◆ がん予防・治療日本一</p> <p>・県民の自己チェック意識の啓発や、出前検診の実施、がん検診車の整備など、がん検診機会の拡大を積極的に進めます。こうした施策により、40歳代乳がんおよび50歳代大腸がん検診の受診率が日本一となるよう、がん検診体制を強化します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県内の従業員100人以上の中小企業349箇所を職員が直接訪問し、従業員のがん検診の受診促進を依頼しました。また、ショッピングセンター等で、乳がんや大腸がんの出前検診を18回実施するとともに、講演会の開催、啓発ビデオの作成、乳がんのセルフチェックの指導(6,300人)等、様々な機会を捉えて、県民への啓発を行いました。併せて、がん検診車を整備し、受診機会の拡大を進めました。</p>																																														
<p>・健康福祉センターにおいて、管内の目標受診率を設定します。また、各市町に出向いて受診勧奨の方法など受診率向上のための個別具体的な助言や働きかけを行います。</p>		<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>健康福祉センターにおいて、管内の目標受診率を設定し、各市町に出向いて受診勧奨の方法など、受診率向上のための個別具体的な助言や働きかけを行いました。その結果、特に受診機会拡大事業に取り組んだ市町においては、がん検診の受診率が向上しました。また、全国で初めて、市町の行うがん検診のほかに職域まで含めた主要がん検診の受診状況を調査し、県民のがん検診の実態を明らかにしました。</p>																																														
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: right;">がん検診受診者</td> <td style="text-align: right;">目標</td> <td style="text-align: right;">17年度実績</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">胃がん</td> <td style="text-align: right;">87千人</td> <td style="text-align: right;">(84,395人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">肺がん</td> <td style="text-align: right;">118千人</td> <td style="text-align: right;">(116,876人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大腸がん</td> <td style="text-align: right;">108千人</td> <td style="text-align: right;">(105,518人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">子宮がん</td> <td style="text-align: right;">42千人</td> <td style="text-align: right;">(38,638人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">乳がん</td> <td style="text-align: right;">41千人</td> <td style="text-align: right;">(39,236人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">396千人</td> <td style="text-align: right;">(384,663人)</td> </tr> </table>		がん検診受診者	目標	17年度実績	胃がん	87千人	(84,395人)	肺がん	118千人	(116,876人)	大腸がん	108千人	(105,518人)	子宮がん	42千人	(38,638人)	乳がん	41千人	(39,236人)	計	396千人	(384,663人)	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">がん検診受診者数</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">19年度見込</td> <td style="text-align: right;">18年度実績</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">胃がん</td> <td style="text-align: right;">78千人</td> <td style="text-align: right;">(76千人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">肺がん</td> <td style="text-align: right;">158千人</td> <td style="text-align: right;">(153千人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大腸がん</td> <td style="text-align: right;">112千人</td> <td style="text-align: right;">(109千人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">子宮がん</td> <td style="text-align: right;">49千人</td> <td style="text-align: right;">(43千人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">乳がん</td> <td style="text-align: right;">37千人</td> <td style="text-align: right;">(32千人)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">434千人</td> <td style="text-align: right;">(413千人)</td> </tr> </table>		がん検診受診者数				19年度見込	18年度実績	胃がん	78千人	(76千人)	肺がん	158千人	(153千人)	大腸がん	112千人	(109千人)	子宮がん	49千人	(43千人)	乳がん	37千人	(32千人)	計	434千人	(413千人)
がん検診受診者	目標	17年度実績																																														
胃がん	87千人	(84,395人)																																														
肺がん	118千人	(116,876人)																																														
大腸がん	108千人	(105,518人)																																														
子宮がん	42千人	(38,638人)																																														
乳がん	41千人	(39,236人)																																														
計	396千人	(384,663人)																																														
がん検診受診者数																																																
	19年度見込	18年度実績																																														
胃がん	78千人	(76千人)																																														
肺がん	158千人	(153千人)																																														
大腸がん	112千人	(109千人)																																														
子宮がん	49千人	(43千人)																																														
乳がん	37千人	(32千人)																																														
計	434千人	(413千人)																																														
<p>・陽子線がん治療施設の治療開始に向け、同施設が広く利用されるよう、県内の医療機関に加え、石川、岐阜、滋賀などの近隣府県の病院等とのネットワークの構築を進めます</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>石川、富山、京都等の近隣府県において、平成19年に新たに指定されたがん診療連携拠点病院を中心に、本県の陽子線がん治療施設が広域的に活用されるよう働きかけを行いました。また、県内主要病院のがん治療医や地域連携室とともに、患者の紹介・逆紹介の具体的な手続きについて協議を進めるとともに、県内の主要病院での講演会の開催等により、陽子線治療の普及を図りました。</p>																																														
		<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: right;">県外のがん診療連携拠点病院への働きかけ</td> <td style="text-align: right;">(15病院)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">北陸放射線治療懇話会での講演会の開催</td> <td style="text-align: right;">(1回)</td> </tr> </table>		県外のがん診療連携拠点病院への働きかけ	(15病院)	北陸放射線治療懇話会での講演会の開催	(1回)																																									
県外のがん診療連携拠点病院への働きかけ	(15病院)																																															
北陸放射線治療懇話会での講演会の開催	(1回)																																															

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品 谷 義 雄
項 目		実 施 結 果	
		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>国内トップクラスのがん医療の第一人者の方々を委員として迎え、構想策定委員会を3回開催し、「がん医療推進センター(仮称)」の機能等を内容とする構想をとりまとめました。</p> <p>この構想を基に、平成20年度中に県立病院内に「がん医療推進センター(仮称)」を設置し、胃がんを対象にチーム医療等を開始します。今後、チーム医療の拡充、県外のがん専門医療機関との連携、専門医の招聘など段階的に整備を進めていきます。</p>	
<p>◆「もっと健康長寿に」プログラム</p> <p>・肥満による生活習慣病の発症・重症予防のため、メタボリックシンドローム予備群や肥満傾向の県民に対し、「適切な食生活の実践」および「適切な運動習慣の定着化」を支援します。</p> <p>新たに身近な運動に取り組む事業所数 100事業所 県民健康センターにおける健康講座受講者数 1,860人(18年度) →2,200人</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>適切な食生活の実践を支援するため、県栄養士会等と連携し、ショッピングセンターでの食生活改善指導(14回)や中食・外食業者(20店)に対するバランスのよいメニューのアドバイス、幼児期からのよい食習慣定着促進に向けた出前講座(125回)等を実施しました。</p> <p>また、適度な運動習慣定着に向けて、県内各市町の自治会や老人会など地域の団体および約700事業所に対し、「みんなでラジオ体操(みんなラジ)」への協力などを含めた運動の参加依頼を行い、「みんなラジ」推進隊として139団体に登録していただきました。</p> <p>さらに、県民健康センターなどがある「ふくい健康の森」では、県民の皆さんの目的や年齢に合わせた健康づくり・生きがいがづくりの場の提供に努めるとともに、「ふくい健康長寿祭」をはじめとする各種イベント等を開催しました。</p> <p>新たに身近な運動に取り組む事業所数 106事業所 県民健康センターにおける健康講座受講者数 2,234人</p>	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例: 成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例: 成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例: 成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例: 成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例: 成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品 谷 義 雄														
項 目		実 施 結 果															
<p>・高齢者の元気生活率をアップするため、地域に密着した健康づくり推進員による体力測定やラジオ体操などの手軽な運動の実践を推進します。</p> <p>・医療関係機関の協力を得て、元気支援高齢者（虚弱な高齢者）を効果的に把握し、介護予防事業への参加を促進します。さらに、要介護者には、自立を促すケアプラン作成と適切な介護サービスの提供を行ない、状態改善を進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>各地区老人クラブにおいて健康づくり推進員を養成するとともに、夏休みのラジオ体操参加を呼びかけた結果、目標を上回る参加者があり、また、各地区で体力測定が行われるなど、自己管理をしながらの健康づくりが実践されました。県社会福祉協議会等が行う各種講座を、高齢者の身近な場所で開催するとともに、県のホームページや県・市町社会福祉協議会のネットワークを活用するなど積極的な広報を行った結果、講座の参加者数は目標を達成しました。</p> <p>医療関係機関の協力を得て、元気支援高齢者（虚弱な高齢者）を効果的に把握し、介護予防事業への参加を進めました。</p> <p>要支援・要介護者には、自立を促すケアプラン作成と適切な介護サービスの提供を進めました。</p>															
<p>75歳～79歳高齢者の元気生活率 88.5%以上</p> <p>80歳～84歳高齢者の元気生活率 75.0%以上</p> <p>健康づくり推進員養成 350人</p> <p>体力測定参加者 800人</p> <p>夏休みのラジオ体操参加老人クラブ 250クラブ</p> <p>福井県社会福祉協議会等が実施する 高齢者向けの講座の参加数 12,000人</p> <p>元気支援高齢者の介護予防参加者 2,000人</p>		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">75歳～79歳高齢者の元気生活率</td> <td style="text-align: right;">88.8%</td> </tr> <tr> <td>80歳～84歳高齢者の元気生活率</td> <td style="text-align: right;">76.3%</td> </tr> <tr> <td>健康づくり推進員養成</td> <td style="text-align: right;">351人</td> </tr> <tr> <td>体力測定参加者</td> <td style="text-align: right;">805人</td> </tr> <tr> <td>夏休みのラジオ体操参加老人クラブ</td> <td style="text-align: right;">505クラブ</td> </tr> <tr> <td>福井県社会福祉協議会等が実施する 高齢者向けの講座の参加数</td> <td style="text-align: right;">12,024人</td> </tr> <tr> <td>元気支援高齢者の介護予防参加者</td> <td style="text-align: right;">2,000人超(見込み)</td> </tr> </table>		75歳～79歳高齢者の元気生活率	88.8%	80歳～84歳高齢者の元気生活率	76.3%	健康づくり推進員養成	351人	体力測定参加者	805人	夏休みのラジオ体操参加老人クラブ	505クラブ	福井県社会福祉協議会等が実施する 高齢者向けの講座の参加数	12,024人	元気支援高齢者の介護予防参加者	2,000人超(見込み)
75歳～79歳高齢者の元気生活率	88.8%																
80歳～84歳高齢者の元気生活率	76.3%																
健康づくり推進員養成	351人																
体力測定参加者	805人																
夏休みのラジオ体操参加老人クラブ	505クラブ																
福井県社会福祉協議会等が実施する 高齢者向けの講座の参加数	12,024人																
元気支援高齢者の介護予防参加者	2,000人超(見込み)																
<p>・健康と若さを保ちながら年齢を重ねるアンチエイジング（抗加齢）の考え方を健康づくりに取り入れた「若さ度チェック」を広く県民に普及するため、実施医療機関の増加を図ります。さらに、普及啓発セミナーや体験モニターの情報発信等を積極的に行います。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「若さ度チェック」を県民に広く普及啓発するため、リーフレットを作成（2万部）し、市町、医療関係者、健診機関などを通じて県民に配布するとともに、チェック体験モニター（50人）を募集し、その受診体験談をホームページで発信しました。</p> <p>また、「ふくい健康長寿祭」や医療機関での無料チェックコーナーの設置、テレビスポットCMの放映なども行い、県民へのPRを行いました。</p> <p>若さ度チェックを実施する医療機関を増加するため、県医師会を通じての実施の呼びかけるとともに、システム説明会の開催など普及啓発に努めました。</p>															
<p>「若さ度チェック」の受診者数 150人</p> <p>「若さ度チェック」実施医療機関数 15医療機関（18年度） →30医療機関</p>		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">「若さ度チェック」の受診者数</td> <td style="text-align: right;">158人</td> </tr> <tr> <td>「若さ度チェック」実施医療機関数</td> <td style="text-align: right;">62医療機関</td> </tr> </table>		「若さ度チェック」の受診者数	158人	「若さ度チェック」実施医療機関数	62医療機関										
「若さ度チェック」の受診者数	158人																
「若さ度チェック」実施医療機関数	62医療機関																

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品谷 義雄
項目		実施結果	
<p>・生涯にわたって健康な歯を持ち続けるため、20歳青年や妊産婦を対象に無料歯科健診を実施し、継続的な歯科健診の定着を図ります。県内各地域で歯磨き指導および嚙下指導の出前講座を開催するなど、県内全域で「8020(80歳まで自分の歯を20本)運動」を展開します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>20歳および妊産婦を対象に、無料歯科健診を県内の歯科医療機関と共動して実施し、歯の衛生に関する意識向上と歯科健診の普及啓発を行いました。</p> <p>県内各地域で幼児児童の歯磨き指導や指導者を対象とした嚙下指導の出前講座を開催することにより、歯科疾患の予防を促進し、8020運動の推進を図りました。</p>	
<p>歯科健診の受診者数 2,000人 歯科健診受診者のうち歯科健診を継続して受けようと思う人の割合 30% 口腔機能訓練の指導者養成 60人</p>		<p>歯科健診の受診者数 2,296人 歯科健診受診者のうち歯科健診を継続して受けようと思う人の割合 76% 口腔機能訓練の指導者養成 190人</p>	
<p>・がんや脳卒中、心筋梗塞など様々な病気の原因となる喫煙対策を強化するため、自らの意思でたばこを止める「断煙」の推進、若者および妊産婦へたばこの害の普及啓発、「県民禁煙デー」の制定、さらに、事業所等での受動喫煙防止対策を推進します。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>若者や女性へたばこの害を普及啓発する禁煙出前講習会を県内全域の大学、専門学校等12箇所で開催しました。</p> <p>また、県内の従業員100人以上の中小企業349箇所を職員が直接訪問し、喫煙対策の実施を要請するとともに、自らの意思でたばこを止める「断煙」の推進について協力を依頼しました。</p> <p>平成20年度は、6月を県庁禁煙月間とし、10月から全庁禁煙とします。</p>	
<p>完全分煙対策を行っている事業所数(従業員100人以上の事業所) 約130事業所(全体の40%)</p>		<p>完全分煙対策を行っている事業所数 173事業所</p>	
<p>・連続ドラマ「ちりとてちん」により「笑い」への理解と関心が高まることを捉え、「笑い」の健康面への効能や「笑い」を取り入れた健康づくりを県民に普及します。このため、健康づくり関係者等を対象に研修会の開催や実演者の派遣などを行います。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>健康づくり関係者等を対象に研修会を開催するとともに、各健康福祉センターに落語のCD等を整備し、県民に無料貸与しました。</p> <p>また、「笑い」についての研究実績を有する関西大学と連携し、「笑い」をテーマにした「関大ふくい笑い講」を12月1日に開催するとともに、同大学落語研究会(関西落語大学)による県内実演会(6回)を実施するなど、県民の「笑い」と健康についての理解を促進しました。</p>	
<p>・「こころの健康」に不安を抱える者を早期に発見し、適切な精神科治療を受けられるようにするため、福井県医師会に委託し、健康診断や診察時におけるこころの健康チェック手法の開発や一般科医の知識・診療技術の向上を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>福井県医師会において、精神科医、臨床心理士、産業医、かかりつけ医等による「福井県自殺・ストレス予防ネットワーク開発委員会」を設置し、健康診断や診察時に使用する簡易ストレスチェック票と、それを用いた判断マニュアル、一般科医との連携方法等の開発を行いました。</p> <p>また、開発した簡易ストレスチェック票やその利用方法等について、かかりつけ内科医等を集めた講習会を3月に開催しました。</p>	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品谷 義雄
項 目		実 施 結 果	
<p>◆ 出産から介護までの安心医療</p> <p>・臨床研修医を確保するため、県内臨床研修病院による合同説明会を開催します。また、国内外の研修に対する助成や総合医研修を実施します。さらに、Uターン勧誘等を行う医師確保アドバイザーを設置し、へき地や自治体立病院等に勤務する医師を確保します。</p> <p>・嶺南医療振興財団による医学生奨学金制度を広く周知して、将来、嶺南地域に勤務する医師を確保します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>臨床研修病院と綿密な打合せを行い、臨床研修病院合同説明会を東京(1回)および県内(2回)で開催した結果、昨年の採用数を上回る臨床研修医を確保しました。</p>	
		<p>〔平成20年度採用の県内初期臨床研修医内定数 59人〕</p> <p>医師確保アドバイザーらが県内外の研修医や医師を直接訪問し、県内勤務の働きかけを積極的に行いました。</p> <p>〔訪問医師数 15人 確保医師数(20年度から県内勤務) 4人〕</p>	
<p>・不足している産科医師の労働過重の軽減と多様化する妊娠・出産ニーズに対応するため、助産師の資質向上のための実務研修を実施します。また、助産師の専門知識や能力を活用する助産師外来や院内助産所の開設を目指し、関係機関への働きかけを積極的に進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>助産師外来や院内助産所の開設を目指し、県内5病院の産科医師と助産師による先進事例調査を実施し、助産師外来等の推進に理解を求めるとともに、資質向上のための助産師実務研修を実施しました。</p> <p>この結果、研修に参加した医療機関の中から、新たに助産師外来が設置される運びとなりました。</p>	
		<p>〔平成20年度内に開設する助産師外来等 3か所〕</p> <p>〔先進事例調査参加者数 産科医師 4人 助産師 5人 助産師実務研修参加者数 40人〕</p> <p>県内の助産師外来数 既設 1か所 20年度開設予定 2か所 開設を検討中 1か所</p>	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品谷 義雄								
項目		実施結果									
<p>・女性医師や看護師の就業環境を整備するために、院内保育所の延長・夜間保育を推進します。また、合同就職説明会や看護師再就業講習会を実施して看護学生および未就業者の県内就業を促進し、看護職員の確保を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>延長保育や夜間保育を実施する院内保育所への補助制度を拡充し、県内の主要病院に対して院内保育所の設置を働きかけました。</p> <p>〔延長・夜間保育を実施する院内保育所数 4施設 (厚生病院、林病院、つくし野病院、済生会病院)〕</p> <p>今年度から新たに看護職員合同就職説明会を嶺北と嶺南の2か所で開催したほか、従来から行っている看護師再就業講習会も嶺南会場を追加して2か所で実施しました。</p> <p>〔県内看護師等学校養成所の県内就業者の割合 74.4% (大学を除く養成学校の県内就業割合 83.3%) 看護師再就業講習会を受講して再就業した人数 22人〕</p>									
<p>〔延長・夜間保育を実施する院内保育所数 4施設</p> <p>県内看護師等学校養成所の県内就業者の割合 77% (大学を除く養成学校の県内就業割合) 83.3% (H19)</p> <p>看護師再就業講習会を受講して再就業した人数 10人</p>											
<p>・医療関係者や県民の意見を踏まえ、本年度中に本県のこれからの医療提供のあり方について検討を行います。また、地域で支える医療体制の整備と「かかりつけ医」の普及を積極的に進めます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>本年度、本県の医療提供体制、今後の施策および目標などを示した第5次保健医療計画を策定しました。</p> <p>また、公立小浜病院救命救急・検診機能整備事業などにより地域の医療体制の整備を支援するとともに、「かかりつけ医」普及のため、医師会とも協力し、来年度から「ふくい在宅あんしんネット」事業を進めていきます。</p>									
<p>・生活習慣病対策や長期入院の是正など、計画的な医療費適正化を進めるため、糖尿病等の患者・予備群の減少率や平均在院日数の短縮等に関する政策目標を定める医療費適正化計画を策定します。また、療養病床の再編に伴い、医療機関の介護施設への転換計画や在宅での医療と介護のあり方を定める地域ケア体制整備構想を策定します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>医療費適正化計画については、平成24年度を目標に健診率や平均在院日数などの基本目標を定め、県民の健康保持と医療の効率的な提供を推進していく計画を策定しました。</p> <p>○平成24年度基本目標</p> <table border="0"> <tr> <td>特定健診の実施率(40～74歳)</td> <td>70%以上</td> </tr> <tr> <td>後期高齢者健診の実施率(75歳～)</td> <td>30%以上</td> </tr> <tr> <td>特定保健指導実施率(40～74歳)</td> <td>45%以上</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>30.2日</td> </tr> </table> <p>地域ケア体制整備構想については、本県の共働き率などを考慮し、医療の必要性の高い方に対する医療療養病床を1,600床確保するとともに、老人保健施設等を中心とした円滑な転換計画や、身近な地域で高齢者を支えられるよう在宅医療や在宅介護を充実していく整備構想を策定しました。</p>		特定健診の実施率(40～74歳)	70%以上	後期高齢者健診の実施率(75歳～)	30%以上	特定保健指導実施率(40～74歳)	45%以上	平均在院日数	30.2日
特定健診の実施率(40～74歳)	70%以上										
後期高齢者健診の実施率(75歳～)	30%以上										
特定保健指導実施率(40～74歳)	45%以上										
平均在院日数	30.2日										

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品 谷 義 雄												
項 目		実 施 結 果													
<p>2 みんなの手によるあたたか福祉 ◆ ヒューマンパワーのあたたか福祉 ・待機者ゼロ県を継続するため、地域の実情等を十分踏まえ、今後、高齢者の増加に伴って必要となる施設を整備します。整備に当たっては、国の助成制度や民間の力を活用して、市町の地域密着型施設を中心に進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>真に施設入所が必要な要介護者を受け入れ、待機者ゼロ県を継続するため、介護施設300床など、必要な施設等を整備しました。</p>													
<p>介護施設整備目標数 約300床 (18年度末整備数 8,835床) ショートステイ整備数 約80床 (18年度末 657床) 小規模多機能型居宅介護事業所を設置 13箇所 (18年度末 16箇所)</p>		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">介護施設整備数</td> <td style="text-align: right;">300床</td> </tr> <tr> <td> (19年度末整備数)</td> <td style="text-align: right;">9,135床)</td> </tr> <tr> <td>ショートステイ整備数</td> <td style="text-align: right;">87床</td> </tr> <tr> <td> (19年度末)</td> <td style="text-align: right;">744床)</td> </tr> <tr> <td>小規模多機能型居宅介護事業所設置数</td> <td style="text-align: right;">16箇所</td> </tr> <tr> <td> (19年度末)</td> <td style="text-align: right;">32か所)</td> </tr> </table>		介護施設整備数	300床	(19年度末整備数)	9,135床)	ショートステイ整備数	87床	(19年度末)	744床)	小規模多機能型居宅介護事業所設置数	16箇所	(19年度末)	32か所)
介護施設整備数	300床														
(19年度末整備数)	9,135床)														
ショートステイ整備数	87床														
(19年度末)	744床)														
小規模多機能型居宅介護事業所設置数	16箇所														
(19年度末)	32か所)														
<p>・高齢者ができる限り住み慣れた身近な地域で、安心して自立した生活が送れるよう、在宅サービスの充実を図ります。また、高齢者の生活を支える地域の体制づくりとして、権利擁護のネットワークと認知症高齢者の支援体制を整備します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>要介護高齢者ができる限り住み慣れた自宅や地域で生活できるよう、地域密着型サービスをはじめとする在宅サービスの充実を図りました。</p> <p>また、高齢者虐待を防止するため、自治会、保健・医療・福祉のサービス提供者、警察署、弁護士などによるネットワーク構築を進める市町を支援しました。</p> <p>さらに、認知症になっても住み慣れた地域で生活を送れるよう、民生委員、老人家庭相談員、自治会、警察、消防、タクシー会社など民間が共動し、見守りや徘徊SOSネットワーク構築などを行う地域の在宅介護支援体制整備を推進しました。</p>													
<p>在宅サービス利用者 18,500人 (平成18年度 18,000人) 市町の高齢者虐待防止ネットワークの構築 6か所 (平成18年度末 4か所) 認知症地域支援ネットワークを構築 2か所</p>		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">在宅サービス利用者</td> <td style="text-align: right;">18,984人</td> </tr> <tr> <td>市町の高齢者虐待防止ネットワークの構築</td> <td style="text-align: right;">9か所</td> </tr> <tr> <td> (平成19年度末)</td> <td style="text-align: right;">13か所)</td> </tr> <tr> <td>認知症地域支援ネットワークを構築</td> <td style="text-align: right;">2か所</td> </tr> <tr> <td> (越前町、若狭町)</td> <td></td> </tr> </table>		在宅サービス利用者	18,984人	市町の高齢者虐待防止ネットワークの構築	9か所	(平成19年度末)	13か所)	認知症地域支援ネットワークを構築	2か所	(越前町、若狭町)			
在宅サービス利用者	18,984人														
市町の高齢者虐待防止ネットワークの構築	9か所														
(平成19年度末)	13か所)														
認知症地域支援ネットワークを構築	2か所														
(越前町、若狭町)															

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品 谷 義 雄
項 目		実 施 結 果	
<p>・多くの県民が登録している福祉ボランティアの活動を活発化するため、行政による「地域福祉コーディネーター」を育成します。</p> <p>また、福祉ボランティアのやる気とニーズをマッチングするため、「ボランティア・カフェ」をまちなかの立ち寄りやすい場所に設置し、若年・熟年者を中心に活動機会を拡大します。</p> <p style="text-align: center;"> 地域福祉コーディネーター研修会の開催 2回・100名 ボランティア・カフェの設置 1か所 </p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p>	
		<p>福祉ニーズとボランティアをつなぐ人材を育成するため、県や市町の職員、社協職員、福祉施設職員、ボランティア等を対象に「地域福祉コーディネーター研修会」を開催しました。</p> <p>また、ボランティアの情報発信基地・集いの場として、福井駅東口のアオッサ7階に「ボランティア・カフェ」を設置しました。</p> <p>＜その他の活動＞</p> <p>「ボランティアポイント制度」(H19.10月～)</p> <p>活動実績に応じてポイントを発行することにより、ボランティアの“やる気”と“達成感”を醸成。</p> <p>「福縁ボランティアネット」(H20.3月末完成)</p> <p>県内のボランティア関連情報を一元的に収集・発信するホームページの開設。</p> <p>「ボランティア応援企業(団体)認証制度」(20.2.22～)</p> <p>企業や社会福祉協議会との“共動”による活動としてボランティア活動に積極的な企業を認証する制度を創設。</p> <p style="text-align: center;"> 地域福祉コーディネーター研修会の開催 開催回数:4回・参加者数:430名 ボランティア・カフェの設置 「アオッサ」7階 H19.10月オープン </p>	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品 谷 義 雄
項 目		実 施 結 果	
<p>◆ つながりと自立の応援プロジェクト</p> <p>・難病患者の安定した療養生活の確保ならびに患者およびその家族の生活の質の向上を図るため、難病医療協力病院を増やし、緊急時の入院受入れや、介護者の休憩を目的とした短期入院(レスパイト入院)が計画的に確保でき、体制を整備し、また、難病支援センターや健康福祉センターにおいて、コミュニケーション機器の貸出しや療養相談および訪問指導等を実施し、きめ細かな在宅療養支援を推進します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>人工呼吸器を装着した重症難病患者の家族の負担軽減および安定した在宅療養生活の確保と患者およびその家族の生活の質の向上を図るため、レスパイト入院を受入れた医療機関を助成する「重症難病患者一時入院支援事業」を開始し、7人の方が利用しました。</p> <p>事業実施に当たり、医療機関を訪問し受入れの要請を行い、難病医療協力病院の増加を実現しました。</p> <p>また、難病支援センターや健康福祉センターにおいて、コミュニケーション機器の貸出しや療養相談および訪問指導等を実施し、きめ細かな在宅療養支援を行いました。</p>	
<p>難病医療協力病院の拡大 6病院 → 10病院 新たにコミュニケーション機器を使用して意思伝達可能となった者 10人 難病専門医等による療養相談件数 10,428件 → 11,500件 難病訪問指導件数 366件 → 400件</p>		<p>難病医療協力病院数 31病院 新たにコミュニケーション機器を使用して意思伝達が可能となった者 12人 難病専門医等による療養相談件数 11,799件 難病訪問指導件数 499件</p>	
<p>・授産製品の開発や福井県セルフ振興センターで行う共同受注システムの充実(販売ルートの開拓)、経営の効率化などの取組みを支援し、授産施設等の売上の増加を実現することにより、障害者の収入増を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>商品開発・販路拡大等を支援するため、マーケティング研修やアドバイザーの派遣を行うとともに、福井県セルフ振興センターによるセルフフェアなど販売会を開催した結果、コーヒー豆やロールケーキなど人気商品が誕生するなど授産施設等の売上が増加し、そこで働く障害者の平均賃金も目標を上回ることができました。</p>	
<p>平均月額授産工賃 15,500円(18年度当初) → 18,000円以上</p>		<p>平均月額授産工賃 18,300円(見込)</p>	
<p>・社会福祉法人等に働きかけ、グループホーム、ケアホームの整備を促進するとともに、障害者のスポーツ・文化活動への支援を行い、地域で自立した生活を送る障害者を支援します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>社会福祉法人等にグループホーム、ケアホームの整備を働きかけた結果、入居者数は目標を上回りました。</p> <p>障害者スポーツでは、県障害者スポーツ大会を開催するなどスポーツを通じた障害者の社会参加を促進するとともに、各市町でのスポーツ用具購入を支援し、地域における障害者スポーツの振興を図りました。</p> <p>障害者の文化活動については、障害者週間に合わせて県障害者ハートフル文化祭を開催し、障害者による器楽演奏や絵画、工芸などの作品展示を行うなど、障害者の文化活動を支援しました。</p>	
<p>グループホーム、ケアホームの入居者数 302人(18年度末) → 350人</p>		<p>グループホーム、ケアホームの入居者数 363人</p>	

平成19年度 政策合意項目に係る実施結果報告(健康福祉部)
(平成20年3月末現在)

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)

役職	健康福祉部長	氏名	品 谷 義 雄
項 目		実 施 結 果	
<p>・車いす使用者用駐車区画の適正利用を確保するため、利用証を発行し、利用できる人を明確にするとともに、施設管理者である国、市町および民間と連携・協力して、案内看板の設置、不適正利用に対する指導を強化し、障害者等の社会参加を支援します。</p> <p>〔 協力施設数 450施設 〕</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>車いす使用者用駐車区画の適正利用を進めるため、「ハートフル専用パーキング(身体障害者等用駐車場)利用証制度」を創設するとともに、車いす使用者用駐車区画を有する国、市町および民間の施設管理者に対して、「ハートフル専用パーキング」の設置について協力を働きかけた結果、目標を上回る施設において協力が得られました。</p> <p>〔 協力施設数 456施設 〕</p>	

4年間の目標数値の進捗状況報告(健康福祉部)

(平成20年3月末現在)

	指標名	18年度の現状	22年度末までの目標	19年度の現状
◆がん予防・治療日本一	がん検診受診者数 ※各がん検診受診者の合計	413千人/年	625千人/年	434千人/年 (見込み)
	陽子線によるがん治療患者数	—	100人	—
◆「もっと健康長寿に」プログラム	こころの健康チェック受診者	—	280千人	—
	運動習慣のある者の割合(推計人数)	男性 27.3% (85千人) 女性 28.5% (98千人)	男性 40%以上 (120千人以上) 女性 35%以上 (120千人以上)	(22年度に調査)
	喫煙率	男性 42.0% 女性 6.2%	男性 35%以下 女性 4%以下	(22年度に調査)
	高齢者の元気生活率(※) 75～79歳 80～84歳	88.5% 75.0%	約90% 約80%	88.8% 76.3%
	介護施設に真に入所を必要とする待機者数(※)	待機者ゼロ	待機者ゼロを維持	待機者ゼロを維持
	在宅介護サービス利用者	18千人	22千人	18,984人
◆出産から介護まで安心医療	新たな医師確保対策による医師充足数	—	20人	4人
◆ヒューマンパワーのあたたか福祉	ボランティア活動者の年間行動者率(推計人数)	36.6% (255千人)	50%以上 (350千人以上)	(20年度に調査)
◆つながりと自立の応援プロジェクト	授産工賃(月收入)の増大	15,500円	30,000円	18,300円 (見込み)
	障害者グループホーム・ケアホームへの入居者数	302人	550人	363人
	車いす利用者用駐車区画適正利用化推進協力施設数	—	800施設	456施設

(※)は福井新元氣宣言において数値目標を設定した指標